

# 第10回ミナミ活性化協議会代表者会議結果

## 1 日時

平成27年1月18日（日）午後2時30分から

## 2 場所

ホテルメトロ The21 2F メトロホール

## 3 出席者（敬称略）

役 職	氏 名
大阪府副知事	小河 保之
大阪市長（代表者会議のみ）	橋下 徹
大阪府警察本部長	三浦 正充
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長	岡本 敏嗣
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会発起人	福長 徳治
大阪商工会議所副会頭	小嶋 淳司

## 4 意見交換

### ○ ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長

ミナミ活性化協議会代表者会議は、平成17年に第一回目の会議を開催し、以来、今回で10回目となった。本年は、協議会設立10周年を迎える節目の年になる。

この協議会設立の経緯を簡単にご説明させていただく。

協議会設立以前の10年前のミナミは、違法な風俗営業の客引きや、いわゆる「カラス族」によるスカウト行為が横行しており、風俗案内所の乱立、ぼったくり事件、それに関連した粗暴事案も多数発生していた。加えてひったくりや車上ねらいといった街頭犯罪も問題となっていた。

また、ルール違反を助長するような放置自転車やはみ出し看板等、街の美観や通行の障害となるような問題も抱え、悪いイメージにさらに拍車をかけていたことから、街を訪れる方々に「ミナミは怖い街」というようなイメージが広がりつつあった。

そのような中で、「風情あるミナミの街を取り戻したい」、「ミナミの街を自分たちの手で良くしていこう」という地元の熱い思いから、自主防犯組織として平成17年2月に、地元商店会や地域振興会等で構成する「ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会」を設立した。

同年9月には、環境浄化を含め、ミナミの活性化のためには官民一体となった総合的な体制による取組が必要であったことから、本日まで出席いただいている行政、警察、経済界の団体と共に、「ミナミ活性化協議会」としてオール大阪の体制を確立し、現在に至っている。

以来、『みんなでつくりよう ええ街ミナミ』をスローガンに掲げて、定期的に、行政・警察・経済界との連絡会議や夜間の合同パトロール等を実施してきた。

商店会や地元単位でもそのような活動が活発化し、はみ出し看板の自主規制や客引き排除の共同宣言の採択等を行い、また一方、警察による取締りの強化、行政によるミナミ全域での放置自転車禁止区域の指定とその対策の強化等、まさに官民一体となった取組が盛り上がりを見せ、その効果も表れ、迷惑防止条例の改正や風俗案内所条例の制定、「宗右衛門町地区地区計画」の制定、心斎橋地区の景観協定の締結等新しいルール作りも行われた。この結果、協議会設立前とは

見違えるほどミナミの環境は良くなったと感じている。

そして昨年は、新たな問題として長年協議会で検討を重ねてきた営業競争が過激化した居酒屋やガールズバー等のこれまでの法令では対応できない客引き行為について、全国初めてとなる「業種を限らず・罰則付き」という「客引き行為等適正化条例」も制定された。

10周年を迎えるに当たり、これまでミナミの街づくり活動を支えてくださった皆様に改めて感謝を申し上げる。

直近の活動について、客引き問題に対する条例の制定から申し上げる。

昨年施行された「客引き行為等適正化条例」については、当協議会での長年の懸案事項であり、地元の自浄活動に加え、協議会としても地元、行政、警察の三者による検討会を重ねてきたが、これら居酒屋等の客引きについては、「営業の自由」との兼ね合いもあり、改善のための決定的な対策については、全国的にも例がなく、非常に難しい問題であった。

しかしながら、本来は観光拠点となるべきミナミの街が客引きで溢れかえり、地域の客引き対策パトロールも最早その限界を超えているという状況であった中、大阪市が市条例制定に向け、実態の調査、法整備の検討、地元の意見集約等、ひとつひとつ丁寧に課題解決に取り組み、最終的には大阪市長のリーダーシップにより、営業の自由を踏まえながらも、人の安全通行を優先し、実効性の観点から規制地区を限定した上で、過料ではありますが罰則まで設け、また、氏名・店名等の公表もあり得るといふ、非常にすばらしい条例が制定されたと感じている。

違反行為をチェックする客引き行為等適正化指導員も、猛暑の中、また今では極寒の中、粘り強く、直接、客引きを行う者や店に対して指導し、そのような必死な姿を見るにつけ、地元としても大変心強く感じるとともに、その頑張りに敬意を表する次第である。条例ができたことにより、地元でもこれまで苦勞していた客引き排除活動で、ハッキリと「条例違反です」と言えるようになり、自浄活動の後押しになるとともに、一部の加熱した営業行為への自制にも繋がっている。

また、大阪府警察にあっても、条例の施行や禁止区域の指定といったタイミングに合わせ、地元の大きな問題となっていたガールズバー組織を検挙したことから、地域の再三のパトロールにもかかわらず横行していたガールズバーの客引きも激減した。条例施行に際し、大阪府警察からも全面的なバックアップがあるということも、地元としては非常に心強い限りである。

このような連携した取組が随所でマスコミにも取り上げられ、全国的にも波及し、他の政令市においても、同様の内容で条例施行に踏み切ろうとしていると伺っている。

6月の条例施行後、特に10月の禁止区域指定後は、客引きが相当減少しているのが歩いてみると一見して分かる。

しかし、相手も商売で利益も絡んでいることから、そう簡単には諦めず、何とか生き残ろうと一部の者は指導の目を掻い潜って客引き行為を続けており、イタチゴッコの状態も否めず、真に安心はできないといったところである。

本条例については、行政だけで成し得るものではなく、さらに警察が一体となった官民協働の取組が必要不可欠であり、現在、地元としても、客引き排除のパトロールはもちろんのこと、迷惑な客引き追放に向けた賛同署名活動を行ったり、警備員の増強、「客引き NO ステッカー」の掲示等、試行錯誤しながらできる限りの対策を講じており、「根源的な浄化」の観点からは違法な風俗店や客引きを行う店自体をテナントとして受け入れることのないように「ビルオーナー対策」も進めているところである。

今後もせつかく施行されたこの条例を風化させることのないよう、地元としても行政、警察と連携しながら客引き対策を推進したいと考えている。

次に自転車駐輪場附置義務条例について見直しをお願いする。

昨年のこの会議において、地域特性を考慮した自転車駐輪場附置義務条例の見直し等、立地と

実情にあった対応策等をお願いした。

現在、大阪商工会議所が事務局となって本協議会の下にワーキング会議が設置され、関係商店会の理事長・会長及び行政を交えた事務レベルでの具体的な検討がなされ規則の改正・追加案が示されているが、残念ながらミナミの地域の実情にあった根本的な見直しには全く踏み込まれていないと感じる。

今、戎橋筋や心齋橋筋でビルの建て替えが急激に進んでいる。平成28年から新耐震基準が適用されるためコンプライアンスを重視する上場企業や外資系等、優良なテナントを誘致しようとする、この基準をクリアする必要があるからである。大丸心齋橋店の建替えもまさにこの理由からである。しかし、ミナミのような一等地の繁華街では、現在の駐輪場附置義務条例が立替え時に大きな負担となり、昨年から今年にかけて新築されるビルは駐輪場設置を避け、わざと売り場面積を300㎡以下に抑えて建築計画をしている。建ぺい率、容積率を余らせてでも、この一等地であるにもかかわらず、もっと売り場面積を増やせるにもかかわらず、ということである。このように附置義務条例が老朽化ビルの建替えや空き地の再利用を妨げ、街の再生の経済活動の足かせになっていると言わざるを得ず、ミナミの活性化、経済の発展という観点からの見直しを再度お願いしたい。

ミナミには前面道路が「自転車走行禁止」の商店街が多々あり、インバウンドも多い超広域型の商店街が集積している。大阪市内を一律、同じ基準で縛るのではなく、実情に合ったやり方で、地区やエリアを分けるべきだと考える。立て替え需要が近々大きく見込まれ、それを推進していくことがミナミの、大阪の発展につながるに違いなく、ミナミという地域特性を生かす条例の見直しを早期に実現し、民間投資の後押しとなるような規制緩和を切に願います。

続いて、ミナミの活性化策につながる「道頓堀川開削400周年」についてご協力のをお願いします。

本協議会は本年で10周年を迎えることとなったが、ミナミ地区も「道頓堀開削400周年」という大きな節目の年である。

地元では中央区南商店会連合会を中心に、次の400年を考える街づくり元年として「大阪ミナミ400年祭」の開催を企画している。

これを経済・観光戦略の機会と捉え、世界各国から観光都市としてこれまで以上に多くの方々を訪れるよう、ミナミから大阪の魅力を発信して行きたいと考えている。そういった面からも、本日で最終日となるのは残念であるが、「大阪・光の饗宴」のイルミネーションが南船場からなんば駅前まで伸ばされたことについては、地元として本当にありがたく思っている。何卒オール大阪体制でのご協力をお願いします。

最後に、今後とも行政・警察・経済界・賛同団体からのご支援・ご協力を得ながら、魅力ある、賑わいの街ミナミの再生・創造に向けて、まちづくり活動を推進して参るので、よろしく願い申し上げます。

## ○ 大阪府副知事

私は、現大阪市長が大阪府知事であったときに、その代理として初めてこの会議に出席した。私は生まれも育ちもミナミ、南区、現在の中央区で、友人も多く、若いときは平気でミナミの街を歩いていたが、ちょうどカラス族が問題になったくらいの中から、大阪出身の私ですら非常に怖くて歩けなくなったのを覚えている。それから官民一体となった取組が進められ、私が非常に驚いた「宗右衛門町の電線の地中化」を含め、活性化協議会の構成団体が汗を流し、今では逆に誇れるような街になりつつあると感じている。

それでは大阪府の取組について発表する。

大阪府では、平成21年に防犯カメラ設置補助事業を始め、それ以来、府下に防犯カメラをた

くさん設置してきた。プライバシーの問題や商売上の問題もあって反対意見もあったが、意見をまとめた上で、歓楽街総合対策としても街頭防犯カメラを設置してきた。これは街頭犯罪だけでなく、子どもや女性を狙った様々な犯罪にも効果があると考えるので、引き続き、大阪府警察と共に取り組んでいきたいと考えている。

また、地道なボランティアとしての活動、地域安全センターや青色防犯パトロール活動等、府下の各地域で活動している団体の中で、特色ある防犯活動をするボランティアに対して必要な物品購入の補助を行おうと考えている。

自転車のひたたくり防止カバーに関する事業についても地道に続けている。

環境浄化の観点からは、「大阪府青少年健全育成条例」に基づき、ミナミ地区の風俗環境の浄化と青少年の健全育成に向けて、インターネットカフェ等の青少年の夜間立入制限施設に対して、大阪府警察や教育委員会等と連携して、合同立入調査を行っているところである。

今年は、「道頓堀川開削400周年」であり、かつ「大坂夏の陣」からも400年といった節目の年であり、大阪府は2015年をシンボルイヤーと位置づけ、「水都大阪2015」や「大坂の陣400年天下一祭」、「御堂筋シンボルイヤー特別プログラム」等を展開しようとしており、「大阪ミナミ400年祭」についても府市をあげて協力して参りたいと考えている。

「大阪・光の饗宴」も寄付等により、ようやくなんば駅の方まで伸び、今後もミナミの発展のための事業を続けていこうと考えている。

私は、ミナミは、衣食、芸能、文化の発祥であると感じている。ミナミには現在、海外から多くの観光客が訪れていることから、環境浄化が進み、文化と賑わいが溢れかえれば大阪全体の活性化につながっていくものと考えている。

大阪府としても引き続き尽力して参るので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## ○ 大阪市長

平素は大阪市政にご協力いただき感謝を申し上げます。

私は大阪市長の立場として、本来であれば皆様と頻繁にコミュニケーションをとらなければいけないが、大阪市長の職務はある意味非常に特殊で、知事の仕事と市長の仕事の合わせたような形であり、課題山積の大阪市政にいろいろと取り組んでいる結果、ほぼ一日中、市役所の市長室で閉じこもりっりの状態である。外に出て皆様とこのようにお話をしなければいけないが、そのような事情もあり、本当に申し訳なく思っている。このことがまさに私が今掲げている「大阪都構想」であり、まさに区長を選挙で選ぶということにもつながっていると思っている。

中央区長は、私よりもはるかに優秀な区長で、非常に頑張ってくれているが、選挙で選ばれていないということで、予算編成権・決定権を持っておらず、最後は私が決めるという状況にあるということをご理解いただきたい。

まず最初に、「客引き行為等適正化条例」については、本当に皆様に感謝を申し上げます。実のところ、いろいろ紆余曲折があり、まず、「大阪全体のルールの中でミナミだけを特別扱いしているのか」という問題があった。ミナミだけを特別扱いし、条例を罰則付きでやるとなれば、新たに指導員を雇用し、予算を増額しなければならなかったからである。そのような問題があったが、私の「予算をつける」「ミナミを特別扱いしてくれ」「罰則をつけてくれ」との指示の下に、担当局が頑張っており、また工夫をして、最終的に条例の制定に至った訳である。その際、ミナミを特別扱いするという条件として、地元の皆様にも一定の負担をお願いし、このご協力の下に全国初の「客引き条例・罰則付き」というものが制定され、効果があがっていると聞いている。

大阪府警察の取締りも非常に強化され、我々の指導員も頑張ってくれている。指導員は今後、現状の10人から20人に倍増する。引き続きミナミの街を外国人観光客が安心して遊べるようにしていきたいと考えている。

外国人観光客は、私が大阪府知事であったときは160万人だったが、今や350万人を超えた。これを東京オリンピックまでに650万人までに増やすという目標を掲げているが、おそらくこれは達成すると感じている。3年前の大阪市長選挙の時、人通りが寂しかった黒門市場の皆様から「何とかしてよ」と言われた時に、私は「日本人客を増やす訳にはいかないけれども、外国人観光客を増やしていく」ということを答えたのを覚えている。それから大阪府と様々な施策を進めてきた結果、着実に外国人観光客が増えているが、この対策を地元の皆様にもいろいろと考えていただかないといけないと思っている。「対策」はマイナス面だけではなく、プラス面も含めてであり、旗振り役は大阪府知事であるが、「おもてなし」の観点から「多言語化」を進めていただきたいと考えている。

先日発表されご周知のとおり、大阪府警察のご尽力で、日本橋のバス問題で一定の解決策が出された。バス2台の停車スペースを5台に増やすということである。さらに今、市有地を見ながら、バスの停留所を検討しているところである。

道頓堀から千日前の間の御堂筋の緩速車線をできる限り早く歩道化していきたいと考えている。御堂筋を車の通行する道路から人が楽しむ道路に変えていきたいということで大号令の下に担当局が頑張ってくれており、まず第一弾として、非常に歩道が狭い道頓堀から千日前の緩速車線を早くなくして、歩道拡幅を行いたいと考えている。

御堂筋のイルミネーションについては、私が大阪府知事の時代から副知事に「ミナミまで」と言われてきた。そして今回やっと伸ばすことができ、次は梅田まで伸ばしたいと考えている。交差点の部分で切れることから長さではギネス認定はならなかったが、木の数でギネス認定を受けている。次は長さでもギネス認定を目指す。

昨年のこの会議で大阪商工会議所副会頭からご意見をいただいた「年末年始におけるリバークルーズ運行のための道頓堀川等の水門通行」については、すぐに担当局に指示を出して調整した結果、年末年始の6日間、水門を開けることになった。感謝の言葉もいただき、非常にうれしく思っている。

自転車駐輪場の附置義務については、規制緩和に関して会派としても旗を振っており、現在、担当局から規制緩和案はあがってきている。これについては、ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長の言うように、大阪市全体で同じルールというのはおかしいと考えている。しかし、大阪市内の特定のエリアだけに特別なルールを作るのは、今の市役所の体制では難しい問題である。だからこそ、大阪市内を5つのエリアに分けて、その地域の実情に合った条例を作っていくというようにするのが、私の考えている「大阪都構想」である。現在は、大阪市一律のルールで考えなければならないが、その中で、ミナミだけを特別なエリアとして規制緩和ができ得るのであれば検討はするが、担当局から案は上げられているので、またご意見は伺いたい。

商店街の活性化については、私が大阪府知事の時から、単に餅つき大会等に補助金を出すようなものではなく、全国の商店街で行われている活性化に向けた好事例を収集した上で研究し、個々の商店街に合うプランを皆様に提示して、そこで企画がまとまったものについてしっかりとサポートするといった方針で進めてきたつもりである。昨年一年間、担当局に全国の商店街の事例を集積させ、その研究の成果も出ているので、この事例を基に皆様にミナミの商店街の活性化に合うものをピックアップしていただき、そこに必要なサポートを行っていききたいと考えている。

私の個人的なアイデアではあるが、現在、「裏なんば」と言われる地区が非常に注目され、若者にも人気のスポットとなっている。福島区の商店街通りもバーがたくさん集まっており、以前に知事と立ち寄った時に歩道が非常に狭くて危険であると感じた。そこで、歩行者の安全確保のために担当局に指示を出して、現在、歩道拡幅に向けた対応をしている。これは商店街への補助というものではないが、環境整備等、そこに訪れる人の安全に関わるものについては、行政がしっかりやっっていこうというものである。もし、環境整備が必要であるというのであればご意見をい

ただきたい。できることはやっていきたいと考えている。

私は、文楽については、前年度の予算に基づいて、漫然と補助金を出すのではなく、しっかりと評価、審査をし、戦略を持った補助を行うよう言ってきた。その結果、「アーツカウンシル」という評価機関もでき、補助金の仕組みも整ったので、文楽についてもしっかりと補助できるようにしたいと考えている。また、来年度から文化団体に寄付をしたいという人の寄付を促すように、新しいふるさと納税を使って、文化団体に直接寄付が回るような仕組みを作る。その際に、文楽や大阪の特徴ある文化等のコンセプトを最大限に使ったまちづくりができないものかと考えている。例えば、鳥取県境港市の商店街は「ゲゲゲの鬼太郎」一色で、年間170万人もの観光客が訪れている。ミナミでは日本橋を中心に文楽というものを使ったまちづくりなど、そのようなことには大阪市としてもサポートしていきたいと考えている。

「道頓堀開削400周年」については、今年はシンボルイヤーとしての位置づけで、様々なイベントを集中させ、魅力あるものにしたいと考えているので、是非、皆様のご協力をいただきたい。

御堂筋のイベントでは、御堂筋を歩行者天国に変え、「御堂筋フェスタ」と「御堂筋K a p p o」を統合したもので、現在、大阪府警察とも調整しているが、今度はF1を走らせるようなイベントができないか担当局の方でも検討してもらっている。漫然と前例のイベントを続けるのではなく、毎年見直し、戦略を持ったイベントを行いたいと考えている。

街頭犯罪対策については、「大阪はこんなものだろう」と諦めることのないよう、先日各局にメールを送った。分析をすると、自転車盗の発生件数が他の政令市より1万件多いことから、自転車盗の発生件数を下げると数値的にはいいところになると考えている。このようなことも踏まえながら、予算がかかっても構わないので大胆な案を出すよう、区長会、部会、担当局に指示を出している。

現在、3年間で10億円の予算を組み、120人体制の街頭犯罪抑止チームを運用している。

ミナミを重点地域として、この街頭犯罪抑止チームを最大限に活用し、大阪府警察と協力しながら、諦めずに街頭犯罪を減らし、外国人観光客や地域住民の皆様が安心して暮らしていただけるようにしたいと考えている。

ルールの中で行政組織は動いている訳であり、最後にそのルールを変えることができるのは、現在は、選挙で選ばれた私の立場しかないというところであり、ミナミに合わせたまちづくり、ルール作りを行っていくためには、ミナミが自らルールを作れるような、ある意味「自治体」を設けなければできない。選挙で選ばれた区長の必要性を皆様にご理解いただきたい。

道頓堀等のイベントも、シンガポールのクラーク・キー、ポート・キーのようにレストラン等が集まるものにしたいと考えており、川沿いの既存の営業と兼ね合いがあるので、調整もしながら、「とんぼりリバーウォーク」も最大限に活用していきたい。

## ○ 大阪府警察本部長

平素から警察行政各般にわたり、ご支援、ご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

ミナミ活性化協議会は、本年10年目ということで、このような形で地元や経済界、行政が一致団結し、まさしくオール大阪体制でまちづくりをしているということは非常に貴重で、重要であり、大阪府警察としても、その一員として引き続き一緒に頑張っていきたいと考えている。

昨年、大阪府警察が取り組んできたことについて申し上げます。

まず、「客引き問題」、これは大変大きな問題であると捉えている。街の環境浄化を阻害し、外国人を含む来訪者の体感治安を悪化させる要因になることから、この問題については、南警察署の随時の取締りに加え、本部、また府下の警察署捜査員を投入し、昨年中、ミナミ地区において客引き事犯で124人を検挙した。

また、客引きの根源の一つとなっている悪質なガールズバーについても、大阪市の「客引き行為等適正化条例」の全面施行に合わせ、昨年の9月27日、捜査員140人を投入し、道頓堀において首謀者等9人を検挙するとともに、客引きをしていた少女16人を一斉に補導した。

加えて、ミナミ地区において違法な営業をしていたガールズバー12店舗を、風営適正化法違反や労働基準法違反で摘発するなど、客引きの根絶に向けた諸対策を推進しているところである。

一方、市条例施行に伴い、大阪市と緊密に情報交換を行うほか、市の職員による巡回指導に対する不法行為についても、南警察署が中心となって早期に警戒態勢を取るなど、市職員の職務執行の支援を行っているところである。今後も引き続き条例の目的が達成されるよう、必要な協力を行っていく。

その他、エステ店を仮装した性風俗店や、インターネットを使用した賭博店を摘発するなど、風俗環境の浄化に向けた取締りを推進するとともに、賭博店での売り上げをみかじめ料として上納させていた暴力団組長等を検挙するなど、暴力団等に対する取締りも強力に推進している。

新たな社会問題となっている危険ドラッグについても、大阪府等の関係機関と連携し、立入調査や取締りを強化してきた。現在、販売店舗が激減するなど、一定の効果は見られるが、他方、デリバリー方式やインターネットによる販売等に移行する傾向も見られることから、今後も引き続き対策を講じて参りたいと考えている。

次に、今後の大阪府警察の取組方針であるが、現在、地元の皆様において、客引き排除やビルの健全化に向けた取組等の浄化活動が自主的に進められていることに関し、非常に心強く感じている。大阪府警察としても、地元の皆様の活動の実効性が確保されるように、引き続き違法な客引きの取締りや違法風俗店の摘発を推進するとともに、悪質なビルオーナーや仲介業者の検挙を視野に入れた捜査を重点的に行って参りたいと考えている。

また、検挙に至らない場合でも、同じ形態の違法店を再入居させないよう、ビルオーナーに健全営業を誓約させるなど、風俗環境の浄化に向けた根源的な対策を行っていく方針である。

街頭犯罪については自転車盗等の犯罪が増加しており、街頭活動を強化するとともに、発生実態に即した抑止検挙活動を一層強化して参りたいと考えている。先ほど大阪市長が述べたように、大阪府警察としても諦めてはいない。ずっと「街頭犯罪はワースト」と言われ続けているが、例えばひったくりについては、年間1万件を超えるとき（平成12年）もあったが、昨年は1200件台にまで減少し、今後1000件を下回ることも夢ではない状況にある。対策は着実に前進しているものと確信している。

大阪市長から指摘のあった自転車盗については、無施錠で多くの方が被害に遭っているという問題があり、まちづくりの観点からも、街頭防犯カメラを設置した駐輪場を充実させていくことが重要だと考えている。

最後に、本協議会の目的である「ミナミを安全で誰もが安心して楽しむことができるまち」にするためには、摘発しても名義だけを変えて同じような店が入ってくるようでは、何ら状況は変わらないことから、ビルオーナー対策や違法店舗の摘発と併せて、これによって生じた空き店舗に優良店を誘致していくことが、次の対策の要になっていくものと考えている。

今後もまちづくりの観点から、ミナミ活性化協議会の一員である大阪府警察として、様々な対策を推進して参りたいと考えている。

## ○ 大阪商工会議所副会頭

10年前に設立されたミナミ活性化協議会のこれまでの成果として、以前より、本当に環境が浄化されたことが実感できる。

そして10年前と比較して、近年は対象となるミナミを訪れる人が変わっているということを我々や行政も強く認識しなければならないと感じている。それはまさに外国人観光客の増加であ

り、関西が国際的にも認められてきているということである。このような観光客に「大阪に来て良かった」、「楽しかった」、「思う存分買い物ができる」、「おいしいものを食べることができた」と感じていただき、リピーターを増やすために、まだまだやるべきことがあると考えている。

大阪市長からは、観光バスの駐車場所の問題、あるいは多言語表示への取組、歩道の拡幅といった発言があったが、私からも、ハード、ソフトの両面で申し上げたい。

第一に、トイレの問題があげられる。公衆トイレが少ないことから観光客が非常に困っている姿が見受けられるので、是非増設をお願いしたい。

第二に、外国人観光客はスマートフォン等を利用してインターネットにより情報を入手し、その情報に従って動くものと思われる。その中で、ミナミ地区で無線LANがつながりにくいという話も聞いているので、多言語表示と併せて整備を進めていくべきであると考えている。

第三に、昨年この場において、大阪市長に対し、年末年始におけるリバークルーズ運行のための道頓堀川等の水門の開放をお願いしたが、即座に指示がなされ、年末年始には大きな効果があったと感じている。今年の正月は、前年よりもはるかに多くの方がミナミを訪れており、道頓堀川のリバークルーズの利用者が3年前と比較すると3倍に増加している実情を考えると、まさに水門の開放が増加の要因になっているものと考えている。本年は「道頓堀川開削400周年」であることから、さらに人気が高まり、多様に親しめる、楽しめるようにしたいと考えているので、今後も是非協力をお願いしたい。

第四に、「免税手続」への柔軟な対応である。商店街で一括して行うことが制度として認められてきているが、ミナミの商店街が本制度の活用を希望する場合は、柔軟かつ迅速な対応をお願いしたい。

第五に、歩行者空間がしっかりとした形で計画されていくことによって、より一層観光都市としての姿ができあがっていくものと思われるので、高島屋大阪店の北側のスペースをもっと観光客に楽しんでもらえるような区画として活用していただきたい。大阪市長からも本件について発言があったが、我々も連携して知恵を出したいと考えている。

第六に、大阪府警察本部長からは、風俗営業等の取締りの強化について発言があったが、明らかに悪質な客引きが減少したことが実感でき、感謝申し上げる次第である。しかしながら、せっかく摘発していただいても、再度同様の店舗が入るといった問題もある。ビル側としても、貸し手と借り手の経済活動でもあることから、有効な対策を研究され、また必要に応じて教示いただき、条例化なども踏まえて検討いただければありがたい。

最後に、大阪市長の発言にあった、文楽や歌舞伎を生かしたまちづくりについては、大阪商工会議所もその中に加わり、活性化に向けて進めていきたいと考えている。建築物の駐輪場附置義務については、是非とも緩和措置を図っていただきたい。

多くの願いを申し上げたが、ミナミの活性化のために官民一体となってまだまだやるべきことがあると考えているので、今後ご協力いただきたい。

## ○ ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会発起人

本日は、本代表者会議にミナミ以外の北新地等の他の地区からも多くの方々にご来場いただき、またこれまでの取組へのご協力について感謝を申し上げます。

各代表からの発言があったが、大阪市長に対しては、客引き行為等適正化指導員の5名から10名への増員について、改めて感謝申し上げます。その中で、我々も環境浄化に向けて誠心誠意努めていく所存であるので、是非20名への倍増をお願いしたい。

我々は「行ってみたいな」「行って良かったな」と言ってもらえるような「人気のある大阪」、「楽しい魅力のある大阪」「評判の高い大阪」を目指している。そのためには訪れる方々が安全であり、安心して利用していただかなくてはならない。



## ○ 大阪市長

客引き行為等適正化指導員は、先般10名に増員したが、さらに増員して20名にする。

また、高島屋の前の広場についても何とかしたいと考えており、担当局がアイデアを出して方向性を定めようとしているが、タクシー協会とも協議した上で、地元の皆様のコンセンサスも必要である。同所は「ミナミの顔」になると思っており、「うめきた」やカジノの関係では舞洲、森ノ宮や中之島など各拠点において整備を進めて行こうとしているが、ミナミへのまちづくりに向けた行政の注いでいるエネルギーが少ないと感じているので、しっかりと対応していきたいと考えている。

自転車の駐輪場の附置義務の関係は、ミナミだけの特別の条例は難しいが、西成特区構想のパターンを参考に、特別のエリア指定をするというような方法も踏まえて、土地の有効活用は重要な問題であるので、今後、担当局と協議することとする。

「とんぼりリバーウォーク」も最大限活用したいと考えているが、シンガポールのクラーク・キー等のようにになると、飲食関係で、既存の川沿いの店舗と競合する可能性が出てくる。通年ベースでなく、期間を絞った形でも、何とか人の集まるような活用をしたいと思っているが、酒類を提供するとなると大阪府警察との調整も必要であるし、競合する既存の飲食店との問題も考えられる。しかし、川沿いの同所は飲食に非常に適した風情があり、ここで何とか観光客を集めることができないかと考えているので、今後ともご協力をお願い申し上げる。

## 5 共同アピールの採択

意見交換後、出席者全員一致で「第10回ミナミ活性化協議会代表者会議共同アピール」を採択した。

## 6 啓発イベント、パレード

代表者会議終了後、相合橋において啓発イベントを行い、道頓堀通（相合橋～戎橋南詰）でパレードを実施した。

## ※ 放置自転車撤去と放置自転車追放キャンペーン

代表者会議に先立ち、道頓堀通（相合橋～御堂筋の間）で大阪市建設局による放置自転車の撤去及び参加者による自転車放置禁止区域の啓発キャンペーンを実施した。

## 第10回 ミナミ活性化協議会代表者会議 共同アピール

われわれ、ミナミ活性化協議会は、「みんなでつくろう ええ街ミナミ」を合言葉に、ミナミを安全で誰もが安心して楽しむことができるまちにするため、平成17年の設立から、地元・行政・経済界が一体となり、オール大阪体制で、健全で魅力あるまちづくりに向けた取組を推進してきた。

これまで風俗環境の浄化、迷惑な客引きや放置自転車への対策、まちのルールづくり等に精力的に取り組み、昨年は客引き行為等の適正化に向けた条例が制定されるなど、まちの健全化・活性化に一定の成果をあげているところである。

そして、本年は設立から10年を迎える節目の年であり、安全で安心な魅力あふれるまちへとさらなる発展を遂げるため、構成団体が相互に連携しながら、次の2点の目標を掲げて、協議会の活動をより強力に推進することとした。

### 一、 『安全安心で、快適なまちの実現に向けて』

違法な客引き対策、街頭犯罪抑止対策、放置自転車対策を強力に推進するとともに、ビルの健全化に向けた基盤作りを行うなど、根源的な浄化に向けた取組を行い、安全安心かつ快適に楽しめるまちづくりを推進する。

### 一、 『魅力とにぎわいのあふれるまちの実現に向けて』

道頓堀川開削400周年を迎える本年は、「水都大阪2015」と連動し、水辺の魅力とにぎわいを創出するとともに、その効果をミナミ全体に波及させ、食や文化を楽しむ風情が息づく、訪れる誰もが感じる「ええ街ミナミ」の実現に向けたまちづくりを推進する。

平成27年1月18日

### 【ミナミ活性化協議会】

大阪府知事	松井一郎
大阪市長	橋下徹
大阪府警察本部長	三浦正充
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長	岡本敏嗣
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会発起人	福長徳治
大阪商工会議所会頭	佐藤茂雄
一般社団法人関西経済同友会代表幹事	加藤貞男

～賛同団体～

ミナミまち育てネットワーク

公益社団法人関西経済連合会

大阪観光局（公益財団法人大阪観光コンベンション協会）